

Dec. 1935.

237

Cyathea squamulata COPEL., *C. contaminans* COPEL., *C. glabra* COPEL. の三は馬來地方に廣大なる分布をなし、*C. Brunonis* WALL., *C. recommitata* COPEL. の二は馬來より Sumatra, Borneo に分布し、*C. obscura* COPEL., *C. Kingii* COPEL. の二は馬來より Sumatra に分布し、*C. alternans*, *C. Burbidgei*, *C. ampla*, *C. polypoda* の四は馬來より Borneo に分布し、*C. tripinnata* は馬來より Luzon, Borneo, Pulau, Tioman に分布し、*C. gigantea* はヒマラヤより馬來半島の南端に達し、殘餘の二種 *Cyathea obtusata* ROSENST., *Cyathea excavata* HOLTUM は馬來半島に特有のものである。(G. KOIDZUMI)

ゴルドン氏: Pitysiaceae (W. T. GORDON: — The genus Pitys, in Trans. Roy. Soc. Edinbg. 58, 1935. p. p. 279—311. t. t.)

従來 Cordaitales の一科と考へられし Pitysiaceae は Pitys, Archaeopitys, Callixylon の三屬より成り; Callixylon は上部泥盆世より下部石炭紀に分布し、他の二は下部石炭紀のものである、著者は Pitys を以て最も原的のものとし他の二屬は之より出しものと考ふ、解剖學上のみより見れば Pitysiaceae は Cordaitaceae よりは却て Araucariaceae に近縁を有し、一方羊齒狀裸子植物の Lyginopterideae に近縁を有す、之を以て見れば Araucariaceae は松柏類中にて最も古きものたるを首肯し得べし、最後に本科は Cordaitales のものに非ずして全く獨立の Pitysiales を設立すべしと云ふ。(G. KOIDZUMI)

矢部, 遠藤兩氏: — 熱河省産 Schizolepis (H. YABE et S. YENDO: — Strobilus of *Schizolepis* from the Lycoptera beds of Jehol, in Proc. Imp. Acad. Jap. X. 1934. p. p. 658—660. fig. 1—3.)

滿洲熱河省の下部白堊より *Schizolepis* Joholensis YABE et YENDO n. sp. と *Czekanowskia rigida* HEER. を報告し、*Schizolepis* と *Czekanowskia* とは常によく相伴して化石に出るから、是は銀杏の如きもの、葉と円錐花穂とにあらざるなきかと云へり。(G. KOIDZUMI)

ラング, クックソン兩氏: — 濠太利志留利亞紀管束植物 (LANG, W. H. et COOKSON, I. C.: — On a flora including vascular land plants, associated with *Monograptus*, in rocks of Silurian age, from Victoria, Australia. in Phil. Trans. R. Soc. Lond. ser. B., 1935. 224, p. p. 421—449. 4 tab.)

上部志留利亞世は下部泥盆世、中部泥盆世と共に古生植物代の所謂泥盆紀を成すもので、上部泥盆世は全く下部石炭紀に入るべきものである、されば上部志留利亞世の陸生植物は下部泥盆世のものと大差ないは當然である、然るに今回兩氏は濠太利

の中部志留利亞より *Monograptus* なる筆石類と共に *Psilophytae* の *Thursophytaceae* に入るべき新屬 *Baragwanathia* を發見せり、本屬は *Drepanophycus* に近縁を有するもので莖軸は星狀の斷面を有する原生中心柱を有し、葉は長形にして葉跡及葉脈を有する眞正の葉で螺旋狀に密生し、其の葉腋に腎臟形の芽胞囊を生じ同一型の芽胞を生ず、他の一は *Yarravia* と稱する新屬にして複子囊は枝の末端に生ずるもので、其の各孢子囊は下半は相互に合し、上半は離れしもので、丁度先頃 HALLE 博士が發見せる羊齒狀種子植物の新科たる *Whittleseyineae* や *Potonieineae* の如き合生孢子囊を有し或は本類中殊に後者に近きものゝ如し、若し果して然りとすれば泥盆紀にも羊齒狀裸子植物 *Eospermatopteris* (*Aneurophyton*) 等 *Aneurophytaceae* と共に更に之より進歩したのものもありしが如し、第三は *Hostimella* sp. である、中部志留利亞に既に如此高等のものがあつたとすると吾人は更に考察の態度を改めざるを得ない。それで今時は是が地球上最古の陸生植物となつたわけである。(G. KOIZUMI)

セツチエル氏：海産植物と太平洋の古地理 (W. A. SETCHELL: Marine Plant and Pacific Paleogeography, in Proceedings of the Fifth Pacific Congress, Canada, vol. IV (1934) 3117—3131, With fig. I—II).

大多數の地史學者は太平洋は世界で最も古い特質を有すると云ふが又一方に於て一部の生物地理學者の間には極めて太古の時代を除いても尙その現在に似た形ちでのみ存在して居たか如何かについては判然せぬとの議論がある。

J. W. GREGORY (1930) は一部は地史學的の、大部分は生物地理學的の論據からして太平洋の地質時代の種々の時期には色々の陸塊や陸橋が存在して居たと云ふ考へに傾いて居る、SETCHELL は海草及海藻の分布を論じて、その方面から見た過去の太平洋を推論して居る。

海草類即ち海産顯花植物は何れも單子葉植物中の沼生類 (*Helobiae*) に屬し、主に地中海、印度洋、西太平洋及びカリビヤ海に分布して居る。その内で前三者の間は各共通の種類的事も、何れかの一地域のみが別種な事も、それから三者が何れも別種で代表されて居る事もあるが、此等の海草は太古、西地中海から北アフリカと歐亞大陸とを経て現在の印度洋と太平洋の境界まで擴がつて居たと想像される大テンス海で出現し、又はそこで優勢であつた所の太古の海草類から分化したものであらうと考へられる、此等は此の海の連絡が亂され始めた始新世中葉の始めから漸新世にかけて最も旺盛に繁茂し、それが鮮新世にヒマラヤ山脈が隆起してテンス海の東部が消滅するまで續いたものと想像される、即ち現生海草の種類の不連続分布の一部は地中海と印度太平洋間の海水の連絡が陸地の隆起の爲めに斷れたに歸せらるべく